

2021年11月26日

各位

会社名 ファーストブラザーズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉原 知紀
(コード番号: 3454 東証第一部)
問合せ先 取締役経営企画室長 堀田 佳延
(TEL. 03-5219-5370)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2021年1月8日に公表した2021年11月期の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正 (2020年12月1日～2021年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	30,100	4,730	4,010	2,550	181.84
今回修正予想 (B)	26,668	4,890	4,300	2,633	187.76
増減額 (B - A)	△3,432	160	290	83	—
増減率 (%)	△11.4	3.4	7.2	3.3	—
(参考) 前期連結実績 (2020年11月期)	15,642	2,541	1,816	2,313	164.95

2. 修正の理由

当社グループは、ポートフォリオ入れ替えの観点から一部の賃貸不動産を売却し、含み益を顕在化させることにより、新たな賃貸不動産の取得原資として活用することでポートフォリオ全体を持続的に成長させております。その過程で、物件の売却額が売上高として多額に計上されませんが、当該売却額はポートフォリオ入れ替えの過程で結果的に生じるものであります。

当事業年度における物件売却については、当初に計画していた売却予定物件をより売却粗利率の高い物件に入れ替えたことから、当初の計画に比べより少額な売却額 (売上高) にもかかわらず、概ね当初の計画の売却収益 (売却粗利) を達成できております。なお、当社グループは、ポートフォリオ入れ替えの際に生じる売却額 (売上高) よりも、賃貸収益 (賃貸粗利) や売却収

益（売却粗利）などの粗利を重要視しております。

賃貸不動産ポートフォリオは順調に積み上がり、その残高は簿価ベースで676億円（当第3四半期末時点）に達し、それに応じて長期安定的な賃貸収益（賃貸粗利）も当初の計画を上回るペースで獲得できております。

また、販売費及び一般管理費、営業外費用はいずれも当初の計画より削減できております。その結果、売上高は前回発表予想値を下回り、各段階利益は前回発表予想値を上回る見通しとなりました。

3. 配当予想

2021年11月期の配当予想の変更はありません。当社の1株当たり年間配当金は、2022年2月上旬に支払予定の期末配当金27円00銭となる予定です。

※上記の業績予想数値につきましては、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上